

「雲丹ミックスナッツ」を発売 「徳永製菓4月の新作」

豆菓子製造販売の徳永製菓（福山市胡町四一二一、上迫豊社長）は、4月の新作菓子「雲丹ミックスナッツ」を発売した。同社直営の豆徳本店などで扱っている。

練りウニのペーストを使用。アーモンド、クルミ、カシュー、ナッツをコーティングしている。「濃厚で深みがある味わい。素材によつて味わいが微妙に異なるので、それぞれ



のナッツとウニの相性を楽しんでほしい」と同社。八〇入りで四三三円。

同社は1869年創業。伝統的で懐かしい豆菓子などを

製造する。近年は素材コーティング技術を活用し、豆菓子の枠にとらわれないさまざま商品を開発している。

問 豆徳本店 084・

922・22710

5月18—22日に開催されるばらのまち福山国際音楽祭の

「三〇日前コンサート」が4月17日14時から、福山市西町のふくやま美術館で行われる。

出演はソプラノの藤井泰子さん、ピアノの伊藤憲孝さん。

鑑賞無料。

夕暮れの灯り —カラオケと酒は百薬の長—

今田 昭和（いまだあきかず）



てもらっていた。今は無き『大黒座』で、田端義夫の実演を見た覚えがあります。隣の席に腰を下ろした『ご婦人客が言つたのを機に、三人で昔話に興ずる。

その中で度々出た「実演」という言葉は、久しぶりに聞いたが、大黒座には昔、長谷川一夫や美空ひばりなど、往年のそうそつたる俳優や歌手が来演していた、というのは初耳だった。

「かわいい奥さんは?」。昔話が一段落した折、ご婦人客が言った。「今日はちょっと所用があつて」とマスター。普段は、『ご夫婦で切り盛りしている』そうだ。

この物語は日記や記憶をもとに創作し、「ミカルタツチで、つづつたものである。話は時として飛んだり、ひつくり返るが、ご容赦願いたい。

リー、歌謡曲など六〇〇枚あるといつレコードの中からリクエストしたのだ。

「捨てた未練が未練となつて、今も昔のせつなさよ。一番が流れている時、引き戸が開いて清楚なご婦人が入つて来た。「こんにちは」「いらっしゃい」。マスターとのざつくばらんな会話からして、どうやら常連客らしい。

去年の12月某日。昭和の風情の深い喫茶店「茶樂工房」（福山市霞町）で、懐メロを聞きながらコーヒーを飲んでいる。曲は田端義夫の「かえり船」。フォークやカント

「懐かしい歌ですねえ。小さい頃親によく連れて行つ

創業は四年前。以前、中華



料理店が入つていた建物への居抜き出店という。「月並みですが、趣味が高じて、と

いうことです」。好きで収集していたレコードが集まり過ぎたので、とマスターは笑

た。が、コロナ禍で客足は鈍化した、と漏らす。

マスターは団塊世代。「フ

オーラは、私たちが一〇代の頃の歌です。CDと比べて音域が広いレコードで聞き、青春時代を思い起して、元気を出してほしい。店は同世代にエールを送る場なのだ、

という。

帰り際、「おや!? 珍しい」。邪氣を払うといわれている少打ち石をカチツ、カチツ、カチツと、マスターが背後で擦ってくれた。

営業は木曜の12—17時。夜は同20時—深夜0時と

している。

つづく

出典：昭和の名曲 野ばら社